

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

(実施期間：平成27～令和2年度)

実施機関：富山大学（総括責任者：齋藤 滋）

## 取組の概要

意識を変える：男女共同参画の先進的学術機関である欧米の提携大学へ女性研究者の短期留学を推進する。学術的刺激や男女共同参画についての意識を深めた国際型女性研究者は、帰学後、部局縦断・横断ミーティング等においてメンターやコーディネーターとなり、経験を次世代に伝え、挑戦意欲の循環を生み出す。

組織を変える：優秀な女性研究者の上位職への登用が公正になされるための多様な視点での人事裁定を担保するよう、各部局の人事選考委員会に男女各1名の外部委員が参加する。

環境を変える：病児・病後児保育、ベビーシッター・プーリング、研究サポーターの拡充、介護コンシェルジュ配置など研究環境を充実させる。

以上の取り組みにより、国際的視野を持ち高い実力を有する女性研究者が増加し循環的に人材育成がなされるシステムが構築されることで、上位職への女性の登用機会が高まり大学が活性化する。

## (1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 取組 | 取組の成果 | 実施体制 | 実施期間終了後の取組の継続性・発展性 |
|------|-------|----|-------|------|--------------------|
| A    | b     | a  | a     | a    | a                  |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

国際的視野と高い研究力を有する女性研究者の育成を目指し「国際型女性研究者育成プログラム」を構築し、「短期留学支援」、「国際シンポジウム企画・開催支援」等の取組を精力的に進め、支援を受けた女性研究者の上位職への昇任、研究力向上といった成果を挙げたことは評価できる。また、既存の「研究サポーター制度」、「ライフイベント復帰者へのスタートアップ研究費支援」を継続して実施し、女性研究者の上位職への昇任を促進したことは評価できる。今後は、これら取組の成果が、機関として掲げた女性研究者在職比率、女性教授比率、女性管理職比率に係る目標の達成に繋がるよう、目標未達の要因分析を行い、本事業を通じて新たに得られた知見を基に実効性の高いポジティブ・アクションを策定、実施することを期待する。

- **目標達成度**：「国際型女性研究者育成プログラム」を実施し女性研究者の上位職への昇任を進めたものの、女性研究者在職比率、女性教授比率、女性管理職比率に係る目標を達成できなかった。今後は、目標未達の要因分析を行い、実効性の高いポジティブ・アクションを実施し、機関として掲げた目標を達成することを期待する。
- **取組**：研究環境整備として保育支援や介護支援等に取り組むとともに、自主経費を用いて女性研究者の「短期留学支援」、「国際シンポジウム企画・開催支援」、「ライフイベント復帰者へのスタートアップ研究費支援」等の充実した研究力向上のための取組を実施したことは評価でき

る。

- **取組の成果:**「国際型女性研究者育成プログラム」の実施により、女性研究者の研究力が向上し、論文投稿数や外部研究資金獲得数の増加、上位職への昇任数の増加といった成果が挙げたことは評価できる。今後は、これら取組の成果が、機関として掲げた女性研究者在職比率、女性教授比率、女性管理職比率に係る目標の達成に繋がることを期待する。
- **実施体制:**学長のリーダーシップの下、本事業実施母体として設置した「男女共同参画推進室」を部局長が参画する「ダイバーシティ推進センター」へ改組し、実施体制の機能強化を図り、女性研究者はもとより多様な教職員や学生の支援、地方自治体との連携の強化を図ったことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性:**補助期間終了後も自主経費を確保し、取組の継続を図るとともに、外部資金や基金の活用を検討を進めており評価できる。今後は、富山県内の他機関との連携強化や北陸地域の他機関との協力体制の構築等、新たな発展的体制の構築を期待する。